

教育
相談室

カウンセラーの窓から

はぐくみ 子どもの心の回復力

子どもと過ごす日常の中で、親の期待とは違ったことが子どもに起きた時、その事態を親がどう受け止めて接するかは、その後の「子どもの回復力」に少なからず影響を与えます。

中学生のユウヤ（仮名）が先生に連れられて、相談室にやってきました。登校はしたものの帰りたい気持ちに襲われ、おなかも痛くなり、黙って学校を抜け出してしまったからです。中学生になり、行事や部活動にも楽しく取り組み、学校生活には慣れたかのように周囲には見えませんが、ユウヤはその日、一時目目の授業には出られませんでした。

「帰りたくなかったのはどうしてかな？」……
「何か嫌なことがあったの？ 周りから何か言われたとか？」

「帰りたい」という気持ちに襲われ、おなかも痛くなり、黙って学校を抜け出してしまったからです。中学生になり、行事や部活動にも楽しく取り組み、学校生活には慣れたかのように周囲には見えませんが、ユウヤはその日、一時目目の授業には出られませんでした。

おろしたことが何度かありました。両親は、そのたびに、ユウヤが学校を楽しめる時期がきつと来ると信じ、探し回り助けてくれた周囲に対し、ありがとうございます感謝の気持ちが持てるようにと接してきました。

子どもが学校に行きたくないと言おう。行つたのに帰るといふ行動をとる。すると、こんな調子では、この子の将来などは何も期待できないのではないかと、親は悲観的に考えがちですが、それでは解決がより一層遠のいてしまうのではないかと思えます。

そういう時は、視点を変えて、「今

はこうだけど、きつとこの子は大丈夫だ。乗り越えていける」と思ってみてはどうでしょう？ しぼんでいる子どもの心が再びやる気を取り戻すには、子を責めずに行動を受け入れる親のゆとりと、ポジティブな考えや言葉かけが必要でしょう。高く跳ぶ前に力を加えられ大きくしなつた棒高跳びの棒が、再びまっすぐに伸びるように、しなやかな心の回復力が、子どもの中に育つことを願っています。

(T・S)

「はぐくみ」は、家庭のあり方についてみなさんと一緒に考えていきたいと発刊しております。子育てのヒントになればと思います。ご意見をお聞かせください。

鯖江市教育委員会生涯学習課
TEL 53-12256

ネットから子どもを守る 10カ条!!

携帯電話、インターネットを安全に利用するため、次のことを守ります。

【子供たちへ】

- ・困ったときはすぐ相談する。
- ・使う時間を決める。
- ・使う場所を決める。
- ・サイトに登録する場合は相談する。
- ・お金がかかる場合は相談する。
- ・名前、顔写真、学校名は書き込まない。
- ・知らない人と連絡を取らない

【保護者の方へ】

- ・暗証番号は保護者が管理する。
- ・月に一度、利用状況を確認する。
- ・ルールを守らない時は、一時利用禁止にする。

鯖江市教育委員会、越前町教育委員会
鯖江警察署協議会、鯖江警察署

発行
鯖江市教育委員会
鯖江市社会教育委員会
青少年健全育成鯖江市民会議
協力
丹南青少年愛護センター鯖丹支所

47号

はぐくみ

家庭教育を考えるシリーズ

あなたがいるから 私はしあわせ



親子で防災チャレンジ（鯖江東小学校）



出前講座で模擬選挙（中央中学校）



いも掘り（ゆたかこども園）



マイお椀で“海の子 里の子 コラボランチ”（河和田小学校）

「当たり前」の反対は、何でしょうか。

朝起きて、子どもたちを学校に送り出し、仕事に行く。仕事が終わって帰宅して、子どもたちの世話をし、また朝が来る——繰り返される日常生活の中で、私たちは、「子育てをしている」という大切なことを忘れがちです。「人を育てている」という自覚さえなくしている場合があるかもしれません。

それでも、問題にぶつかったときには、自分の子育てはこれでよかったのだろうかと思いつつ立ち止まり、自分の生活を振り返るのもです。子育ての悩みとは、自分の生き方を見直させてくれる貴重な機会かもしれません。大きな問題に直面する前に、自分たちの心の持ちようを一緒に見つめてみましょう。

いろいろなことを「当たり前」だと思っていたけれど…

結婚して、家庭を持ったのだから、子どもができるのは、当たり前。

ちゃんと食事を作って食べさせているのだから、子どもがどんどん大きくなるのは、当たり前。

養ってやっているのだから、子どもが親の言うことを聞くのは、当たり前。

勉強机も買ってやったし、塾にだっていかにさせているのだから、子どもが勉強するのは、当たり前。

私たちは共働きで忙しいのだから、義父が孫をみてるのは、当たり前。

本当に？ 本当に「当たり前」なのでしょいか？

結婚して七年、やっと子どもが授かりました。

息子は、小さい時に大病をして心配したけれど、今では元気に学校に行っています。

うちの子は、学校は楽しいと言い、遠いみちのりを雨の日も風の日も雪の日も、毎日歩いて登校してくれました。

仕事から疲れて帰ってきて、家族が笑顔で迎えてくれます。

義母さんは社交的な人で自分の時間も大切だろうに、私たちの子育てに協力してくれています。

「当たり前」の反対語は、「ありがたい」だそうなんです。



「聞くこと」と「祈ること」

涓滴

子育てほど、難しいことはありません。子どもをしっかりと育てたいのですが、叱れば叱るほど、子どもは荒れる場合があります。親の話も聞かず、勝手なことばかり。「大人の言葉で、子どもは簡単に動かないなあ。」言葉はなかなか通じない。「と気づき、「私の子育ては失敗だった。」と絶望を感じるときもあるでしょう。

しかし、人間関係の中でも、親子関係ほど難しいものはないのです。そこで、子育てに困り、「この子はどうすることもできない。」と親が絶望感をもったとき、説教をしたり話したりするのはなく、聞くことに専念してみることをおすすめします。

子どもたちは、自分の話を聞いてもらうことで、わかってもらえる喜びを感じます。子どもの中には、同じことを何度も何度もくり返し話すが、聞いてもらえないと、同じことをくり返し話すのなかなかに疑問に感じることもあるでしょう。お家の方に聞いてもらうことで、子どもの心は安定するのです。子どもの心は、根気強く聞くことで変化していきます。

子どもの声を聴くということは、子どもの苦しみや喜びを聴くということでもあります。子どもが背負っている苦しみや伝えたい喜びをそのまま受け入れることにより、子どもの苦しみは半減し、喜びは二倍になります。聴くということは子どもたちに生きる力を与えることになるのです。

そして、時に子どもを見守るしかない場合は、祈りに近い気持ちで子どもの成長を待ち続けましょう。自分を信じて待ち続けてくれる親の姿を見て、子どもたちは、親の祈りを感じ取ります。どんな困難な中でも、「親は私を信じて愛してくれていた」という経験、「自分を見守り続けてくれた」という気づきが、一生、子どもの心を支えていくのです。

「涓滴」とは「しずく」という意味。しずくも集まれば、やがて大河となることの願いを込めて。